

'17.4.27

矢崎科学技術振興記念財団

16年度助成を決定

学術賞など3分野34人

矢崎科学技術振興記念財団(尾崎護理事長)は、二〇一六年度の「研究助成金」受領者二五人、「国際交流援助」受領者一七人、「特定研究助成金」受領者一人、「矢崎学術賞」受領者一人を決定した。

同財団は、一九八三年以来、科学技術の発

展を目的として「研究助成」(同一〇二〇一六年度、「研究助成」事業を行って〇万円)、「一般研究助成」(同一〇〇年から同財団が特定分野の応募があり、審査の結果、横濱国立大学の創生部門、稲垣伶史准教授の研究の「リチウム・硫黄二次電池の高容量化のための多孔質炭素電極の調製」は

「奨励研究助成」



贈呈式の様子



記念撮影

は、四八件の応募の中から、金沢大学理工研究域物質化学系、酒田陽子助教の研究の「錯体化学的アプローチによる金属含有カーボン自己修復、環境適応

「特定研究助成」は、領域a「生物の機能や構造を情報伝達

材料創成」をはじめ二〇件に決定した。

「特定研究助成」は、領域a「生物の機能や構造を情報伝達

「一般研究助成」は、領域b「創生に活用して従来にならぬ人工物を実現する研究」および、領域b「扱いにくい熱を交換、貯蔵して有効に

活用する技術」の同財団が特定したテーマに、計二件の応募があった。厳正な審査の結果、領域bから、京大大学院工学研究

科マイクロエレクトロニクス専攻、土屋智由准教授の研究「真空チノキヤップを用いた高温熱電子発電・冷却デバイス」に決定した。

また、「矢崎学術賞」は、過去に同財団から研究助成を受けた研究者の中から優れた成果をあげた研究者に贈っており、功績賞は該当者がなかったが、奨励賞は茨城大学工学部電気電子工学科の鈴木健仁講師に決定した。

「国際交流援助」は、前年度より四人多い一七人の受領者となった。

なお、贈呈式は三月九日に都内で開催された。